

## 茶畑めぐって、ちょこっとお参りコース

コース概要 ● 約 3.3km 約 4,710 歩 所要時間：約 50 分 消費カロリー：約 150kcal

## 空堀川、なにに出会えるか、わくわくコース

コース概要 ● 約 4.0km 約 5,710 歩 所要時間：約 60 分 消費カロリー：約 180kcal

三光院を訪ね空堀川沿いを散策、  
茶畑をめぐり狭山の風土を巡る、  
コース 2 選



### ① 清水観音堂 (市指定文化財)

創建年代は不詳ですが、古くから祀られていたと推定され、長さ一尺五寸(約 45cm)の本尊、正観世音菩薩は行基の作といわれています。

狭山三十三観音霊場の十五番目の札所で、狭山三十三観音霊場は、天明 8 (1788) 年に開創されたといわれ、江戸時代に入間領、山口領と呼ばれた地域(東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、所沢市、入間市)にある観音巡礼です。



### ② 旧吉岡家住宅 (登録有形文化財)

日本画家・故吉岡堅二画伯邸を、将来記念館的な施設にするため、目録作成や寄贈された絵画の修復、額装のほか、建物の管理も行っています。春と秋に特別公開を行っています。

敷地面積約 2,528m<sup>2</sup> (766 坪)、  
生垣に囲まれた敷地内には樹木が

繁り、広い前庭に面して国の登録有形文化財に登録された主屋兼アトリエ、長屋門、蔵、中門が建っています。

なお、市立郷土博物館 (P.2) では 2F 常設展示室内に吉岡堅二コーナーを設置しています。



### ③ 清水神社

建保 2 (1214) 年の創建とも伝えられ、氷川社として村山貯水池の湖底となった石川に鎮座していました。その後、貯水池建設に伴い、大正 8 (1919) 年頃に氷川神社と熊野神社を合祀し、当地に移転し、字名から清水神社と改称したといえます。

幕府から 5 石の土地を与えられていた御朱印状が残されてあり、重宝に指定されています。

江戸時代末期に高円寺から伝えられた江戸の囃子といわれる市指定文化財の「清水囃子」は、当神社の公会堂等で稽古が行われ、現在も秋祭りなどで披露されています。



← 写真出典：「わが故郷 東大和」(http://2010katakuri.la.coocan.jp/)



### ④ 高木神社と戸長役場跡 (市指定文化財) (→P.9 をご参照ください)

### ⑤ 清水村庚申塔 (市指定文化財)

鳥居と社殿があり庚申神社という名前になっていますが、以前はお庚申様と呼ばれていたそうです。

社殿の中には石塔が 2 つあり、右の塔が市指定文化財に登録されています。その塔には、庚申の日に講を開き 5 年間継続した結願として享保 13 (1728) 年、塚を築き塔を祀ったとの築造経過が詳しく刻まれています。



古くから社殿にわら草履が捧げられ、昔の人が馬頭観音と思い、旅の無事を祈ったとも考えられます。

かつては、雑木が茂る低い丘で、井戸や樺の巨木があったといわれています。



### A 三光院 (→P.2 をご参照ください)




### ⑥ 空堀川

一級河川・荒川水系の柳瀬川の三次支流で、総延長は約 15km、武蔵村山市の都立野山北公園域内の丘陵を源流域として東へ流れ、東大和市高木で奈良橋川が合流、清瀬市の清瀬橋付近で柳瀬川に合流します。

かつて渇水期に水がなくなることから「空堀」と呼ばれ、一方で大雨が降ると洪水が起きる暴れ川でした。また、生活排水のために悪かった水質は、下水道の整備によって改善されましたが、水量が減少したため、J R 武蔵野線の湧水を引き入れたり、東京都や流域住民が水量確保や環境保護に努めています。

河川敷を歩いていくと、カルガモやアオサギの姿を目にすることができます。

\*\*\*\*\*



### 吉岡堅二画伯

東大和市にゆかりをもつ日本画家といえば、吉岡堅二画伯でしょう。吉岡堅二画伯は東京・本郷に生まれ、昭和 19 (1944) 年から晩年まで東大和市ですごしました。積極的に洋画の思考を取り入れた新しい日本画表現を模索し、その画風は後進の日本画家たちに大きな影響を与えました。写真は市で作成したポストカードです。

\*\*\*\*\*

### 狭山三十三観音霊場とは

狭山三十三ヶ所、狭山観音三十三ヶ所、武蔵野狭山三十三ヶ所等ともよばれ、天明 8 (1788) 年、金乗院亮盛・妙善院万景が開創したといえます。江戸時代に入間領、山口領と呼ばれた地域(東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、所沢市、入間市)にある観音巡礼です。